

〔研究ノート〕

「多文化間コンピテンス尺度」作成のための予備調査 — 結果報告を中心に —

A preliminary study for the creation of a Multicultural Competence Inventory

稲垣 亮子

Ryoko Inagaki

要旨：本稿は、「多文化間コンピテンス尺度」作成のために実施した予備調査の結果を中心に報告するものである。「多文化間コンピテンス」とは、多文化共生社会におけるホスト側である日本人住民に必要とされる「対応」を定義したものである。多文化が共存する社会では、ゲスト側の適応のみならず、ホストの能動的な働きかけから質の高い相互作用を創造し、対人関係を良好に開始・維持することが求められる。そこで、コンピテンスの項目化には、異文化理解・接触に不可欠な「気づき」「知識」「スキル」がコンピテンスの背景に位置しているという観点、留学生の異文化適応に関する内容とチューター経験者の学習内容の観点を用いた。項目化の検討後、2種類の質問紙を作成し、約400名を対象とした調査を行った。その結果、性別と想定外国人カテゴリにおいてコンピテンスの差が認められた。また、因子分析の結果「積極的なコミュニケーションによる関与」「日本文化・習慣の手引き」「異文化への共感的理解」と解釈可能な3因子構造を得た。本稿で報告する予備調査の結果を基に、本調査で用いる項目の検討が今後の課題となる。

キーワード：多文化共生社会 ホスト住民 多文化間コンピテンス 尺度項目

問 題

「我々（ドイツ政府）は労働力を取り寄せた。しかしやって来たのは、人間だった。」これは、スイスの作家M.フリッシュが1960年代に記したとされる一節である（坂井，2011）。この言葉は、戦後のヨーロッパ経済、そして現在でも米国経済にみられる移民問題を象徴的に表現している。そして、異文化で生活するマイノリティとの関わり合いという問題をマジョリティに問いかけている。多文化が共存する社会では、異文化滞在者であるゲスト側がホスト社会にいか「適応」すべきか、という問題が焦点化される。しかし、多文化共生社会のゲストは、ホスト側にも多くの新しい価値観をもたらす（Amiot, & de la Sablonniere, 2010）。これは、ホスト社会の施策のみならず、ホスト住民のゲストへの「対応」を蔑ろにできないことを意味している。

1990年の「出入国管理法」の改定から20年以上が経過した現在、日本には多くの外国人が地域

住民として生活している。特に愛知県を含んだ中部地域は製造業が多いため、自治体の責務として、就労・生活する外国人住民へのソーシャルサポートの充実が取り組まれている（稲垣，2011）。一方で、異なる文化背景をもった外国人住民と日本人住民の双方が、地域の生活者として就労したり、教育を受けたりするとき、質の高い接触を創造し、正の相互作用を生み出すために、ホスト社会の日本人住民にはどのような能力が必要となるだろうか。多文化共生というと、ともすればゲストの外国人住民の文化変容（acculturation）や日本社会への適応のみが問題とされがちである。しかし、日本人もまた同時に多数の外国人がその一員となる多文化社会への適応を迫られているのであり、日本人に要求される異文化適応能力を心理学的に検討することは意義深いものとする。

外国人たちが日本社会へ長期滞在するにあたり直面する困難とはどのようなものであろうか。例えば、田中・藤原（1992）、田中・高井・山神・藤原（1993）、高井（1994）、田中・中島（2006）は、留学生の異文化不適応に関する研究を行なっている。これらの研究では、留学生が生活する上で感じる対人関係上の問題点を探索、類型化し、困難事項の問題を認知面と行動面から分析している。具体的には「1. 感情や機嫌を損ねずに調和を保つ工夫としての表現の間接性」「2. 礼儀や社会通念としての行動」「3. 抑制のきいた自己表現」「4. 異性との関わり」「5. 日本人による外国人の特別扱い」「6. 集団主義的な行動と同一性の尊重」の6類型が日本で対人関係を形成・維持する際の困難事項として類型化されている（田中・藤原，1992）。そして、田中・中島（2008）は、6類型に則して作られた社会的状況でのロールプレイと日本人学生からのフィードバックを繰り返すというソーシャルスキル訓練を実施し、教育的介入を行った。その結果、各状況に対して日本人からの印象が好転し、留学生自身も状況に即した行動の認知を獲得している。これに対し、日本人学生を対象としたものには、高濱・田中（2010）、奥西・田中（2007）の異文化間ソーシャルスキル学習に関する研究がある。前者は、海外留学予定の日本人学生の適応、後者は、留学生と日本人学生との対人関係構築を目的としている。自文化と異文化下では異なる人間関係の効果的な行動様式の規範を理解・学習するセッションを繰り返し、異文化間の対人関係をすみやかに成立・維持・発展させるための認知・行動的な技能が向上したことを報告している。具体的には、異文化性の存在への気づき、日本文化との違いの具体的認識、気づき・認識に従った社会規範からの解離、負の状況に対する誤解の可能性について正確に説明する技術、相手との妥協点・交渉力・柔軟性等、相手への配慮を伴った主張性の技術などである。

留学生と日本人学生を対象とした研究の中には、留学生支援者である日本人チューター学生の意識や留学生との関係について論じたものがある。田中（1996，1997）は、日本人チューター学生の視点から異文化接触体験に関する質問紙調査と質問紙調査に先立った面接調査を実施している。チューター達は、チューター経験を通じた対人関係形成過程で、相手文化の理解と吸収が生じ、異文化間ソーシャルスキルが学習され（田中，1996）、対人行動の変容が起っていた。田中

(1996)によると、この異文化間ソーシャルスキルは、対人関係形成における、異文化性への知識と理解、配慮を伴った判断と行動のスキル、対話の重要性や否定的な帰属への注意といった異質な者との交流に必要なスキルが含まれる。また、文化に特定されないスキルの学習も報告されている。同時に、チューターたちは、コミュニケーション障害などの困難点、交友などの楽しかった経験、異文化接触に伴う相互理解・葛藤解決の方法・ソーシャルスキルの習得・文化の仲介機能などの学習経験、日本社会の再認識・自分自身を振り返る機会などの自己の成長も報告している。

以上をまとめると、留学生に対するチューター経験は、「社会的側面」「異文化間教育的側面」「人格的成長側面」の向上体験に結びつく(田中, 1997)。「社会的側面」とは、異文化の価値観から日本社会を見直す価値観の転機、習慣や社会の仕組みに対する留学生の視点との同一視が含まれる。「異文化間教育的側面」とは、習慣の違いに関する具体的知識、不快や怒りの低減、苛立ちへの耐性という情緒のコントロール、社会的文脈での的確な受信と発信に代表される。「人格的成長側面」とは、対処能力の有能性の向上、交流への動機づけの高まり、双方向的で対等な対人関係から学ぶ意義等であることが述べられている。

一方、多人種、多民族から構成された移民国家である米国では、特に心理カウンセラーなど対人サービスに従事する職業人に対し、多文化への敏感な感受性や多文化状況での適切な振る舞いが強く求められている。このような背景のもと、multicultural competence (MC) という概念が提出され、さかんに研究が展開されている。コンピテンスとは、環境と効果的に相互に影響し合う能力(White, 1959)であり、自文化下での経験、自文化の価値・態度が自身に影響を及ぼしていることを認識し、多文化状況にて生じる心理的・対人的問題に適切に対応できる能力を持つこと、および、そのような存在として自己を認識することがMCであるといえる。

Sue, Bernier, Durran, Feinberg, Pedersen, Smith, & Vasquez-Nuttal, (1982) と Sue, Arredondo, & McDavis, (1992) は、カウンセラー自身がバイアスやステレオタイプに気づいていること、異文化の価値観と世界観に気づいていること、異文化の社会、歴史、環境的影響を考慮した適切な介入を行なえる能力を備える重要性を説明している。そして、このMCは、Pedersen (1989) によって提示された異文化接触に必要な「気づき」「知識」「スキル」の3つの側面をもったストラテジーを基盤としている。Pedersen (1989) による各ストラテジーの解釈は以下のとおりである。まず「気づき」とは、内在化された思考や態度、価値に気づくことであり、異文化接触には不可欠なものである。気づきによって文化的文脈における見解の関係づけ、意味づけ、置き換えが可能となり、それが強制や圧迫、拘束や制約といった負の意味なのか、あるいは機会や好機といった正の意味なのかを識別することができる。そして、様々な事象に対して自らの限界を正確に判断することができる。次に、多文化的状況における「知識」とは、その正確な知識によって気づきを越えた効果的で適切な行動を起こすことを可能にする。適切な知識

は行動を仮定したり想定したりすることの基盤となり、文化の異なる人々の見解から、その文化の理解や解釈を可能にする。また、その人々の地域や国の文化を知ることも可能にする。適切な知識があれば、その知識にアクセスすることで思考や行動を方向づけることができるからである。最後に「スキル」とは、多文化的な状況下で効果的な行動に向けた、気づきの構築と知識を適応したり応用したりするストラテジーである。異文化の人々を観察し、行動を理解し、自らが実際に行動することで相互作用を可能するというものである。Sue et al. (1982) と Sue et al. (1992) は、上記の3つのストラテジーを Multicultural Counseling Competence (MCC) に必要な3領域として捉えている。そして、Sodowsky, Taffe, Gutkin, & Wise, (1994) は、Sue et al. (1982), Sue et al. (1992) の提唱したコンピテンスの枠組みから「多文化間カウンセリング尺度 (the Multicultural Counseling Inventory : MCI)」の開発を行っている。Sodowsky et al. (1994) によって展開された各コンピテンスの概要は以下のように解釈できる。まず「気づき」は、自文化が相手に与える影響についての認識、対人関係における行動様式の文化的特徴の認識、ホスト社会・自国の社会経済的地位の影響の認識、異文化の視点から自文化を知覚すること、異文化に対するステレオタイプと差別に対する負の影響の認識から構成されている。また、「知識」によって、異文化を正しく理解することで文化的ストレスを軽減させることができる。そして「スキル」は、文化によるコミュニケーションの違いの理解と有効なコミュニケーションへの工夫、異文化に対する慎重な係わり合いと行動への努力、自分の言動が異文化に対する偏見になっていないか省みる、言葉が通じないことに対する寛容さ、という内容から構成されている。

日本社会においても既に立ち現れつつある多文化状況へ対応するに当たり、このMCという概念は、非常に重要なものであると考えられる。コンピテンスは、具体的な行動を生み出す機能もっている(菊池・堀毛, 1995)。そして、人は積極的に環境に働きかけることでコンピテンスを獲得し、コンピテンスを高めようと動機づけられる(桜井, 2004)。すなわち、多文化状況におけるコンピテンスを持つことは、異文化という環境に能動的に働きかけたり、多文化状況による諸問題に対処しようとする能力や動機づけを高めたり、多文化共生社会の実現に大きく寄与したりするだろう。そして、そのような重要な働きをもつ多文化間コンピテンスを測定する心理学的尺度を開発することは、行政や企業の該当部署の職員をはじめ、一般住民に至る人々の多文化状況への対応力を評価するためにも必要なことであると考えられる。

以上より、本研究は、留学生の異文化適応に寄与するソーシャルスキルに関する研究、および、米国におけるカウンセラーを対象とした多文化間コンピテンスに関する研究をもとに、現状の日本社会において必要とされる多文化間コンピテンスに関する心理学的尺度を作成することを目的とする。尺度化にあたっては、Pedersen (1989), Sue et al. (1982), Sue et al. (1992), Sodowsky et al. (1994) によって提唱、展開された「気づき」「知識」「スキル」の3つの領域が日本人住民の対応、つまり、「多文化間コンピテンス」の背景にあると位置づけ、具体的な対

応内容を検討する。そして対応内容を項目化し、尺度の作成を行なうこととする。本稿は、尺度作成のための予備調査の結果を報告するものである。

方 法

大学生を対象に、多文化間コンピテンスを尋ねる質問紙調査を実施した。質問紙は、多文化間コンピテンスとデモグラフィック項目の他に、海外滞在経験と外国人との交流経験の有無、海外志向の有無を尋ねる項目であった。質問項目が多いため、調査協力者の回答時間への負担を配慮し、2種類の質問紙（以下、調査A・調査Bとする）を作成した。その後、各調査の分析結果に基づいて各項目を採否し、本調査に使用する項目として統合を行った。

質問紙の構成 質問紙は、調査A・調査Bともに以下の項目から構成されていた。

多文化間コンピテンス尺度 多文化が共存する社会において、異文化または、外国人住民に対する対応の程度を測定する項目で、本研究で独自に作成した。項目化の方法と項目の選定について次に示す。項目の作成に当たっては、先ず、高濱・田中（2010）、奥西・田中（2007）、田中（1996、1997）の日本人大学生対象とした異文化間のソーシャルスキルや異文化理解に関する分析、報告内容を質問項目化した。また、高井（1994）の日本人学生の留学生に対する「道具的なソーシャルサポート」、田中・藤原（1992）の在日留学生が抱える対人行動上の困難に関する分析内容を質問項目に変換し、約300項目を作成した。次に、作成過程で語彙、表現が重複した項目を削除し、約200項目を残した。そして、200項目に対してKJ法を用いてカテゴリ化を行った。その後、カテゴリ内で質問内容の具体性と抽象性の観点から、縮約・圧縮と展開・復元（佐藤，2008）の過程を繰り返しながら項目を取捨選択し、6カテゴリ100項目を得た。各カテゴリ内の項目内容は、概ね以下のような性質をもっていた。1. 遠慮や謙遜をせず、率直に話す等、相手文化のコミュニケーションスタイルに合わせる性質、2. 好感をもたれるように明るく接する、身振り手振りなどで気持ちを伝える等、文化一般の対人関係の構築に関する要領、3. 緊張しないように落ち着く、外国人を避けようとしめない等、言葉の壁にこだわらずにコミュニケーションを図ることを試みる性質、4. 異文化、及び、自文化に対する積極的な関与を意味する多文化共生社会への動機付けの高さを表した性質、5. 異文化に関する知識や意識・気づきに関する性質、6. 日本文化的行動様式を異文化の人々に伝えるという性質であった。表1は、カテゴリごとにその項目の一部を示したものである。

上記の過程を経て作成された項目は、100項目と数が多いため、調査対象者への負担を考慮し、100項目のうち68項目をカテゴリ内で便宜上AとBとにランダムに振り分けた。AとBとに振り分けられた。その他の32項目は、共通項目としてAとBとに加え、調査A・調査Bとした。したがって、各調査の多文化間コンピテンス尺度は66項目となった。

回答に先立ち、「日本で生活している外国人と接するとしたら、あなたは、次のような行動を

どれくらい行なうことができますか。または、外国人に対してどのように考えていますか。」と教示した。ただし、「外国人」という言葉からイメージされる人種・民族像は個人によって異なり、そのことが結果に影響を及ぼす可能性が考えられる。そのため、「特定の国を想定しない外国人一般」「アジア系外国人」「欧米系外国人」「南米系外国人」の語のいずれかに置き換えて調査した。回答の形式は「1：全く当てはまらない」「2：あまり当てはまらない」「3：どちらでもない」「4：やや当てはまる」「5：非常に当てはまる」の5件法であった。

デモグラフィック項目 デモグラフィック項目は、所属学部と学科、性別、年齢、留学生か否かについて記入を求めた。

海外滞在経験と外国人との交流経験の有無 滞在経験については、「あなたは、海外に一箇所につき、2週間以上滞在した経験はありますか。」という質問に対し、「あり」と回答した調査対象者には、滞在期間の選択、国または地域の記入、滞在期間中に友人になった外国人の有無について回答を求めた。滞在期間は「1. 2週間～1ヶ月以内」「2. 1ヶ月以上～1年以上」「3. 1年以上～2年以内」「4. それ以上」の4項目であった。友人になった外国人の有無に対して「いる」と回答した調査対象者には、交流の頻度について回答を求めた。交流の頻度は、実際に会うこと以外にも電話やメール等も含んだ交流について「1. よくする」「2. ときどきする」「3. あまりしない」「4. めったにしない」の4項目であった。

表1 KJ法による各カテゴリの性質と項目例

カテゴリ	項目例
1	相手文化のコミュニケーションスタイルに合わせる <ul style="list-style-type: none"> ・外国人には、はっきりと主張した方が受け入れられる ・外国人には、自分の気持ちを気後れせずに堂々と伝えることを心がける ・外国人と話すときは、遠慮しないで応じる
2	文化一般の対人関係の構築に関する要領 <ul style="list-style-type: none"> ・感情表現を豊かにして接する ・相手の話を進んで聞きたい気持ちを表す ・積極的な気持ちが伝わるように努力する
3	言葉の壁にこだわらない <ul style="list-style-type: none"> ・かたこと言葉でもねばり強くコミュニケーションする ・余裕をもって相手に接する ・伝えたいことを、自信をもって相手に言う
4	異文化と自文化に対する積極的な関与 <ul style="list-style-type: none"> ・外国人同士の仲間やグループに対して親しく話しかける ・相手の国の文化や習慣、人間関係のマナーについての知識を積極的に得る ・日本社会の習慣やマナーなど、日常的なことから日本の文化について話す
5	異文化に関する知識や意識・気づき <ul style="list-style-type: none"> ・日本の文化を再確認するために、相手の文化や習慣について積極的に知識を得ようとする ・簡単なことでも言葉が通じないもどかしさをわかっている ・日常生活に困っていたら役立つ情報を一緒に探す
6	日本文化的行動様式を異文化の人々に伝える <ul style="list-style-type: none"> ・「謙遜」した方が好意的に受け入れられる場合があることをアドバイスする ・断るときは相手を傷つけないように、はっきりと言わない方がよい場合があることを教える ・「遠慮」することは、相手への思いやりや配慮であることを教える

海外志向の有無 海外志向は、海外に関することへの興味・関心、および、興味・関心事項に対する実際の取り組み・行動とした。「あなたは、海外に関することについて「興味や関心がありますか。」という質問に対し、「ある」と回答した調査対象者には、その内容について自由記述によって回答を求めた。また、興味・関心事項への取り組み・行動については、「興味や関心事項に対して何かに取り組むなど、行動していることがありますか。」という質問に対し、その内容を自由に記述するように回答を求めた。

調査時期 調査Aは、2011年9月から12月、調査Bは2011年10月から2012年1月であった。

手続き 調査Aは、講義時間の一部を利用した集団調査形式で、調査Bは、集団調査形式と一部個別配布法を併用して実施された。調査は講義担当者と筆者の依頼、あるいは、筆者の依頼を承諾した講義担当者によって回答が求められた。いずれも、調査前に文書による依頼、および開始時の文書と口頭による説明合意を得ている。質問項目は、多文化間コンピテンス、デモグラフィック項目、海外滞在経験と外国人との交流経験の有無、海外志向の順で配置された。回答は全て無記名で行われた。実施時間は、10～15分であった。

調査対象者 調査対象者は、調査A・調査BともにA県内の大学に通う大学生である。調査Aの調査対象者は、243人であった。うち、有効回答数231人（95%）であり、男性46人（20%）、女性185人（80%）、年齢18～25歳、 $M=19.6$ ($SD=1.2$) であった。同様に、調査Bの調査対象者は、177人であった。有効回答数174人（98%）であり、男性12人（7%）、女性162人（93%）、年齢18～23歳、 $M=20.0$ ($SD=.76$) であった。なお、本研究の目的からデモグラフィックにて留学生と回答をした対象者は有効回答数に含まれていない。

結 果

調査A・調査Bの多文化間コンピテンス尺度項目に対して、性別の t 検定、外国人カテゴリに対する分散分析、因子分析を行った結果、および、海外に関する経験や志向との関連を分析した結果を以下に示す。

性差にみるコンピテンス まず、調査A・調査Bの多文化間コンピテンスの全項目に対して、コンピテンスの項目得点を算出した。「1：全く当てはまらない」を1点、「2：あまり当てはまらない」を2点、「3：どちらでもない」を3点、「4：ややあてはまる」を4点、「5：非常に当てはまる」を5点とし、項目得点とした。表2・表3は、調査A・調査Bにおける各項目得点の平均、標準偏差を示したものである。 t 検定の結果、調査A・調査Bの各項目の項目得点において、性別による有意差が認められた項目があった。

表2・表3に示されているように、項目得点において男女間に有意差がみられた項目は、各調査において以下の19項目であった。「笑顔で接する」[調査A]： $t(228)=-2.24$, $p<.05$, 「日本人がことばではっきり言わないときは、表情などをよく見て日本人の気持ちを判断することを

表2 全体および性別の多文化間コンピテンス項目得点の平均と標準偏差 (調査A)

No.	項目	全体		男		女		t値
		M	(SD)	M	(SD)	M	(SD)	
1	こわがらずに積極的にコミュニケーションをはかる	3.12	(1.12)	3.28	(1.34)	3.06	(1.06)	1.18
2	相手に理解してもらえるように日本の社会や文化、習慣について話す	3.25	(0.99)	3.24	(1.23)	3.23	(.98)	0.04
3#	お世話になった人に挨拶やお礼を言うことは日本の習慣であることを教える	3.4	(1.07)	3.59	(1.15)	3.33	(1.04)	1.46
4#	外国人との間に疑問や納得できないことがあったときは、納得できるまできちんと話し合う	2.98	(1.00)	2.98	(1.22)	2.97	(.93)	0.03
5	笑顔で接する	4.47	(.70)	4.26	(.91)	4.52	(.63)	-2.24 *
6	ことばのハンディを伝えるようにする	3.52	(.98)	3.46	(1.17)	3.52	(.93)	-0.42
7	外国人同士の仲間やグループに対して親しく話しかける	2.73	(1.16)	2.78	(1.26)	2.72	(1.14)	0.3
8#	簡単なことでも言葉が通じないもどかしさをわかっている	4.17	(.88)	3.93	(1.00)	4.21	(.84)	-1.92
9#	日本の習慣として、言葉に出して言ったことと、心の中で思っていることが違う場合があることをアドバイスする	3.08	(1.10)	3.04	(1.19)	3.07	(1.07)	-0.15
10#	日本語の会話の練習相手になる	3.74	(1.08)	3.63	(1.10)	3.76	(1.08)	-0.71
11	外国人と接する機会をたくさんもつ	2.99	(1.18)	3.09	(1.23)	2.97	(1.18)	0.58
12	日頃からよくあいさつする	3.5	(1.09)	3.41	(1.24)	3.53	(1.05)	-0.65
13	余裕をもって相手に接する	2.92	(1.02)	3.09	(1.17)	2.88	(.98)	1.23
14	言いたいことを身振り手振りでもいいから伝えてほしいことを言う	3.71	(.94)	3.74	(1.04)	3.72	(.91)	0.13
15#	相手との信頼関係をつくるため、時間をかけて根気よくつき合う	3.53	(.97)	3.43	(.98)	3.57	(.96)	-0.87
16#	日本語が堪能ではない人々は、単語をならべて意志を伝えるだけでも大変だ	3.78	(1.00)	3.63	(1.00)	3.81	(1.00)	-1.06
17#	日本人がことばではっきり言わないときは、表情などをよく見て日本人の気持ちを判断することを教える	3.19	(1.05)	2.98	(1.11)	3.22	(1.03)	-1.41
18#	日本で生活している、外国語でコミュニケーションすることの難しさを忘れがちになる	3.76	(1.09)	3.85	(.92)	3.72	(1.13)	0.69
19	お互いの社会や文化について比較したり、話し合ったりすれば、自分の知識や視野が広がる	4.28	(.81)	4.17	(.90)	4.3	(.78)	-0.97
20	相手に日本語があまり通じなくても、身振り手振りでも、自分の知識や視野が広がる	4.26	(.77)	4.33	(.70)	4.25	(.78)	0.61
21	伝えたいことを自信をもって相手に言う	3.27	(.94)	3.54	(.81)	3.22	(.96)	2.13 *
22	遠慮をしないで積極的に話しかけてみる	2.98	(1.05)	3.07	(1.06)	2.96	(1.05)	0.59
23	相手の様子をうかがうのではなく、しぶんから心の壁を取り除く	2.92	(1.04)	3	(1.05)	2.91	(1.04)	0.54
24#	文化や習慣、考え方は国によって大きく違う	4.46	(.76)	4.3	(.94)	4.49	(.71)	-1.5
25#	日本人に合わせた行動をした方がよい場合があることをアドバイスする	3.14	(1.07)	3.41	(1.11)	3.05	(1.05)	2.06 *
26#	日本の生活に慣れていないようだったら、近所を案内したり、買い物などに付き合ったりする	3.46	(1.04)	3.28	(1.13)	3.49	(1.02)	-1.23
27#	日本語の「断り方の表現」には、たくさんのバリエーションがあることを教える	3.31	(1.03)	3.22	(1.13)	3.32	(1.00)	-0.6
28	閉鎖的にならないで思ったことや自分の気持ちを素直に相手に伝えて、相手のこともよく聞く	3.5	(.93)	3.5	(.94)	3.49	(.93)	0.09
29	言いたいことを自然に話して伝える	3.37	(.98)	3.37	(1.08)	3.37	(.95)	0.01
30	文化や習慣の違いがあることは仕方がないので、共通点をさがすようにする	3.61	(.98)	3.59	(1.00)	3.6	(.98)	-0.08
31#	相手の国の文化や習慣、人間関係のマナーについての知識を積極的に得る	3.88	(.93)	3.57	(.93)	3.97	(.92)	-2.65 **
32#	日本の文化を再確認するために、相手の文化や習慣について積極的に知識を得ようとする	3.83	(.97)	3.61	(1.01)	3.87	(.96)	-1.22
33#	自己主張を抑えた方がよい場合があることをアドバイスする	2.81	(.99)	2.89	(1.14)	2.77	(.95)	0.73
34#	外国人には、はっきりと主張した方が受け入れられる	3.86	(.88)	3.83	(.95)	3.85	(.86)	-0.19
35#	ジェスチャーをまじえて伝えたり、聞いたりする	4.19	(.81)	3.98	(.87)	4.24	(.79)	-1.99 *
36	相手を和ませるように接する	3.83	(.90)	3.72	(1.11)	3.85	(.84)	-0.92
37	彼らが育ってきた環境やその人の生き方を尊重する	4.05	(.88)	4.02	(.98)	4.04	(.86)	-0.15
38#	日常生活に困っていたら役立つ情報と一緒に探す	3.74	(.92)	3.63	(1.00)	3.77	(.89)	-0.91
39#	日本のマナーとして、人との約束は守らなければならないことを教える	3.61	(.99)	3.74	(1.02)	3.56	(.98)	1.09
40#	外国人が生活習慣の違いで困っているときは説明する	4.01	(.79)	3.78	(.92)	4.06	(.74)	-2.2 *
41	外国人と話す時は、相手が自分のことをどう思っているのかわからない	2.83	(1.00)	3	(.94)	2.8	(1.02)	1.19
42	アイコンタクトを多くとる	3.79	(1.04)	3.43	(1.20)	3.89	(.97)	-2.71 **
43#	言いたいことは丁寧に主張する	3.82	(.85)	3.8	(.93)	3.83	(.82)	-0.2
44	日本の社会や文化、習慣について進んで話す	3.37	(.95)	3.11	(.92)	3.43	(.94)	-2.1 *
45#	「謙遜」した方が好意的に受け入れられる場合があることをアドバイスする	3.01	(.99)	3.15	(1.03)	2.97	(.98)	1.1
46#	断るときは相手を傷つけないように、はっきりと言わない方がよい場合があることを教える	3.19	(1.00)	3.24	(1.04)	3.17	(1.00)	0.43
47	外国人には遠慮しないで応じる	2.94	(.98)	3.26	(1.06)	2.87	(.94)	2.45 *
48#	外国人が理解できるように普段の自分の話し方のスピードをかける	3.99	(.87)	3.76	(1.04)	4.06	(.81)	-2.14 *
49	沈黙が長ならないように会話を続けるように努める	3.37	(.94)	3.35	(1.06)	3.39	(.91)	-0.27
50#	相手の文化と自分(日本)の文化に摩擦が起こらないように潤滑油のような存在になる	2.99	(.95)	2.93	(.95)	2.99	(.95)	-0.38
51#	日本の習慣として、周りの人に従わないと浮いてしまうことをアドバイスする	2.82	(1.01)	3.02	(1.26)	2.78	(.95)	1.45
52#	「すみません」が適切に使えるよう教える	3.29	(1.03)	3.29	(1.13)	3.25	(1.00)	0.84
53	外国人と話すときは、謙遜しない	2.85	(1.02)	3.09	(1.09)	2.78	(.99)	1.82
54	自分のことを伝えたい気持ちを進んで表す	3.36	(.93)	3.43	(.96)	3.35	(.93)	0.53
55#	話のきっかけをみつける	3.7	(.90)	3.65	(.82)	3.71	(.91)	-0.38
56	外国人に対する固定観念(思い込み)を柔軟にかえる	3.73	(.91)	3.87	(.91)	3.7	(.91)	1.13
57#	集団の意見を取り入れた方がよいことをアドバイスする	3.09	(.98)	3.25	(.87)	3.02	(.99)	2.03 *
58#	社交辞令だけで相手を誘わない	3.28	(.93)	3.2	(1.05)	3.3	(.88)	-0.71
59	親しみやすい雰囲気と接する	4.02	(.82)	3.78	(.99)	4.08	(.77)	-2.18 *
60#	「遠慮」することは、相手への思いやりや配慮であることを教える	3.18	(.95)	3.3	(1.01)	3.14	(.93)	1.05
61	話し合いをしない限り、お互いの誤解は深くならない	3.63	(1.00)	3.63	(.95)	3.63	(1.01)	0.02
62	明るく振舞う	4.27	(.82)	3.98	(1.02)	4.35	(.75)	-2.75 **
63#	違う文化や習慣などをもつ外国人には、自分の意見をはっきり言わないと誤解が生じる	3.9	(.79)	3.91	(.76)	3.89	(.81)	0.16
64#	相手の話しを進んで聞きたい気持ちを表す	3.85	(.89)	3.41	(1.00)	3.96	(.82)	-3.89 ***
65#	外国人に集団行動を押し付けない	3.38	(.94)	3.13	(1.07)	3.43	(.89)	-1.93
66	積極的な気持ちが伝わるように努力する	3.81	(.90)	3.56	(1.03)	3.86	(.86)	-2.08 *

No. 横の#は調査A・調査Bの共通項目である

* $p < .05$; ** $p < .01$; *** $p < .001$

教える」[調査B] : $t(172) = -2.83$, $p < .01$, 「伝えたいことを自信をもって相手に言う」[A] : $t(229) = 2.13$, $p < .05$, 「何を話したらいいのかわからないことを正直に伝える」[B] : $t(172) = -3.35$, $p < .01$, 「日本人に合わせた行動をした方がよい場合があることをアドバイスする」[A] : $t(229) = 2.06$, $p < .005$, 「相手の国の文化や習慣、人間関係のマナーについての知識を積極的に得る」[A] : $t(228) = -2.65$, $p < .01$, 「ジェスチャーをまじえて伝えたり、聞いたりする」[A] : $t(227) = -1.99$, $p < .05$, 「外国人が生活習慣の違いで困っているときは説明する」[A] : $t(229) = -2.20$, $p < .05$, 「アイコンタクトを多くとる」[A] : $t(229) = -2.71$,

表3 全体および性別の多文化間コンピテンス項目得点の平均と標準偏差(調査B)

No.	項目	全体		男		女		t値
		M	(SD)	M	(SD)	M	(SD)	
1	かたことの言葉でもねばり強くコミュニケーションする	3.78	(.95)	3.83	(.94)	3.78	(.96)	.19
2	日本のことを彼らによく説明して理解してもらう	3.20	(.87)	2.83	(.94)	3.22	(.86)	-1.50
3#	お世話になった人に挨拶やお礼を言うことは日本の習慣であることを教える	3.44	(1.06)	3.00	(1.35)	3.48	(1.03)	-1.51
4	外国人との間に不快なことや誤解があったときは、納得できるまできちんと話し合う	3.17	(.98)	2.83	(1.11)	3.20	(.97)	-1.24
5	相手を不快にさせないように明るく接する	4.35	(.72)	4.08	(.90)	4.37	(.70)	-1.34
6	自分のことばのハンディを伝えるようにする	3.82	(.92)	3.67	(1.15)	3.83	(.90)	-.60
7	外国人同士の仲間やグループに心を開く	3.51	(1.05)	3.33	(1.15)	3.52	(1.05)	-.59
8#	簡単なことでも言葉が通じないものかききわわっている	4.22	(.90)	3.83	(1.19)	4.25	(.87)	-1.55
9#	日本の習慣として、言葉に出して言ったことと、心の中で思っていることが違う場合があることをアドバイスする	3.09	(.97)	2.83	(1.11)	3.11	(.96)	-.96
10#	日本語の会話の練習相手になる	4.01	(.95)	4.08	(.79)	4.00	(.96)	.29
11	自分から心の壁を取り除いて、話しかけたりする	3.29	(1.08)	3.25	(1.14)	3.30	(1.08)	-.14
12	相手の国の言葉をあいさつ程度でもおぼえてたど下手でも声をかける	3.74	(1.07)	3.75	(.87)	3.73	(1.09)	.05
13	自分の言いたいことを落ち着いて伝えることができる	2.76	(1.06)	2.33	(1.15)	2.80	(1.05)	-1.46
14	言葉は違うが、理解し合うことができれば上手につきあえる	3.94	(.82)	4.17	(.72)	3.93	(.82)	.99
15#	相手との信頼関係をつくるため、時間をかけて信頼よくつき合う	3.65	(.90)	3.67	(.78)	3.65	(.92)	.07
16#	日本語が堪能ではない人々は、単語をならべて意思を伝えるだけでも大変だ	3.78	(.96)	3.58	(1.24)	3.79	(.94)	-.72
17#	日本人がことばではっきり言わないときは、表情などをよく見て日本人の気持ちを判断することを教える	3.27	(1.00)	2.50	(1.17)	3.33	(.96)	-2.83**
18#	日本で生活していると、外国語でコミュニケーションすることの難しさを忘れがちになる	3.83	(1.14)	3.83	(.94)	3.83	(1.16)	.02
19	相手や相手の文化に何に対する寛容さや思いやりをもつことは、自分自身の人間的な成長になる	4.48	(.64)	4.25	(.62)	4.49	(.64)	-1.27
20	ことばの問題があっても対等な話し合いができるよう工夫する	4.18	(.75)	4.17	(.72)	4.19	(.76)	-.08
21	何を話したらいいのかわからないことを正直に伝える	3.37	(1.05)	2.42	(.90)	3.44	(1.03)	-3.35**
22	ものおしじないで自分から話しかけてみる	3.05	(1.13)	2.67	(.78)	3.08	(1.15)	-1.23
23	相手にこころを開いてもらうためには、まず、自分のこころを開いたり、話しかけたりする	3.61	(.99)	3.42	(.67)	3.63	(1.01)	-.72
24#	文化や習慣、考え方は国によって大きく違う	4.59	(.70)	4.33	(.98)	4.61	(.67)	-1.34
25#	日本人に合わせた行動をした方がよい場合があることをアドバイスする	3.15	(1.05)	3.00	(1.13)	3.16	(1.05)	-.51
26#	日本の生活に慣れていないようだったら、近所を案内したり、買い物などに付き合ったりする	3.70	(1.02)	3.58	(.90)	3.70	(1.03)	-.39
27#	日本語の「断り方の表現」には、たくさんバリエーションがあることを教える	3.41	(1.00)	3.25	(1.14)	3.42	(1.00)	-.56
28	外国人だからといって特別な存在としてあつたり、接したりしないで、日本人と同様につきあう	3.42	(1.07)	3.33	(1.30)	3.43	(1.05)	-.29
29	混乱しないで話す	3.00	(1.06)	2.50	(.90)	3.04	(1.06)	-1.70
30	相手の文化を理解しようとするオープンな姿勢をもつ	4.13	(.75)	4.17	(.58)	4.13	(.77)	.16
31#	相手の国の文化や習慣、人間関係のマナーについての知識を積極的に得る	4.01	(.85)	3.58	(1.00)	4.04	(.83)	-1.81
32#	日本の文化を再確認するために、相手の文化や習慣について積極的に知識を得ようとする	3.87	(.96)	3.67	(.98)	3.88	(.96)	-.75
33#	自己主張を控えた方がよい場合があることをアドバイス	2.91	(.91)	3.00	(1.41)	2.91	(.87)	.34
34	外国人には、自分の気持ちを気後れせず、堂々と伝えることを心がける	3.43	(.96)	3.42	(.90)	3.43	(.97)	-.03
35#	ジェスチャーをまじえて伝えたり、聞いたりする	4.38	(.75)	4.25	(.75)	4.39	(.75)	-.63
36	気軽に話す	3.47	(1.13)	3.17	(1.11)	3.49	(1.13)	-.95
37	外国人にはその国の考えがあるのだからそれを尊重する	4.01	(.82)	4.08	(.79)	4.01	(.82)	.31
38#	日常生活に困っていたら役立つ情報を一緒に探す	3.93	(.85)	3.75	(.97)	3.94	(.84)	-.74
39#	日本のマナーとして、人との約束は守らなければならないことを教える	3.84	(.91)	3.42	(1.08)	3.87	(.89)	-1.67
40#	外国人が生活習慣の違いで困っているときは説明する	4.21	(.66)	4.25	(.75)	4.20	(.65)	.24
41	外国人と話す時は、相手が自分のことをどう思っているのか気にしない	2.56	(1.08)	2.67	(1.15)	2.56	(1.08)	.34
42	感情表現を豊かにして接する	3.77	(.93)	3.67	(.89)	3.78	(.94)	-.40
43#	言いたいことは丁寧に主張する	3.84	(.79)	3.58	(.51)	3.86	(.81)	-1.16
44	日本社会の習慣やマナーなど、日常的なことから日本の文化について話す	3.80	(.85)	3.92	(.90)	3.79	(.85)	.50
45#	「謙遜」した方が好意的に受け入れられる場合があることをアドバイスする	3.01	(1.01)	2.83	(1.03)	3.02	(1.01)	-.63
46#	断るときは相手を傷つけないように、はっきりと言わない方がよい場合があることを教える	3.21	(.97)	3.08	(1.16)	3.22	(.95)	-.48
47	お互いにはっきりと気持ちを述べたり、打ち明けたりする	3.52	(.93)	3.50	(.67)	3.52	(.95)	-.09
48#	外国人が理解できるように普段の自分の話し方のスピードをかえる	4.22	(.82)	4.25	(.87)	4.22	(.82)	.11
49	話が膨らむ内容を選んで伝える	3.44	(.96)	3.08	(.79)	3.47	(.97)	-1.34
50#	相手の文化と自分(日本)の文化に摩擦が起こらないように潤滑油のような存在になる	3.98	(.91)	4.00	(.60)	3.98	(.93)	.07
51#	日本の習慣として、周りの人に従わないと浮いてしまうことをアドバイスする	2.72	(.98)	2.42	(1.24)	2.74	(.96)	-1.10
52#	「すみません」が適切に使えないように教える	3.09	(1.01)	2.08	(1.00)	3.16	(.98)	-3.68***
53	外国人と話すときは、遠慮しないで応じる	3.36	(1.05)	3.25	(.87)	3.37	(1.06)	-.38
54	自分の楽しい気持ちが相手に伝わるようにする	4.02	(.91)	3.67	(.78)	4.05	(.91)	-1.41
55#	話のきっかけをみつける	3.88	(.96)	3.92	(.67)	3.88	(.98)	.14
56	外国人を身近に感じることができれば、異なる人種や民族に対する違和感が減る	4.28	(.75)	4.42	(.67)	4.27	(.75)	.67
57#	集団の意見を取り入れた方がよいことをアドバイスする	3.08	(.98)	2.75	(1.36)	3.10	(.94)	-1.20
58#	社交辞令だけで相手を誘わない	3.36	(.97)	3.58	(.90)	3.34	(.98)	.84
59	好感を得るような態度で接する	3.99	(.82)	3.42	(.90)	4.04	(.80)	-2.56*
60#	「遠慮」することは、相手への思いやりや配慮であることを教える	3.35	(.94)	2.83	(1.11)	3.39	(.91)	-2.00*
61	ささいなことでもよく話合ってお互いを知る	3.68	(.94)	3.42	(.67)	3.70	(.95)	-1.00
62	元気づけ積極的に接する	4.01	(1.01)	3.83	(1.19)	4.02	(1.00)	-.61
63#	違う文化や習慣などをもつ外国人には、自分の意見をはっきり言わないと誤解が生じる	4.05	(.89)	3.42	(1.00)	4.10	(.87)	-2.59*
64	相手に対して自分の楽しい気持ちを表す	4.17	(.83)	3.92	(.79)	4.19	(.83)	-1.11
65#	外国人に集団行動を押し付けない	3.52	(.93)	3.67	(.89)	3.51	(.93)	.58
66	相手に興味をもってもらえるような態度で聞く	4.01	(.84)	3.83	(.94)	4.02	(.83)	-.74

No. 横の#は調査A・調査Bの共通項目である。

* $p < .05$; ** $p < .01$; *** $p < .001$

$p < .01$, 「日本の社会や文化、習慣について進んで話す」[A]: $t(229) = -2.10$, $p < .05$, 「外国人には遠慮しないで応じる」[A]: $t(228) = 2.45$, $p < .05$, 「外国人が理解できるように普段の自分の話し方のスピードをかえる」[A]: $t(229) = -2.14$, $p < .05$, 「『すみません』が適切に使えるように教える」[B]: $t(172) = -3.68$, $p < .001$, 「集団の意見を取り入れた方がよいことをアドバイスする」[A]: $t(227) = -2.03$, $p < .05$, 「親しみやすい雰囲気です接する」[A]: $t(228) = -2.18$, $p < .05$, 「好感を得るような態度で接する」[B]: $t(228) = -2.56$, $p < .05$, 「『遠慮』することは、相手への思いやりや配慮であることを教える」[B]: $t(172) = -2.00$,

$p < .05$, 「明るく振舞う」[A]: $t(229) = -2.75$, $p < .01$, 「違う文化や習慣などをもつ外国人には、自分の意見をはっきり言わないと誤解が生じる」[B]: $t(172) = -2.59$, $p < .05$, 「相手の話しを進んで聞きたい気持ちを表す」[A]: $t(229) = -3.89$, $p < .001$, 「積極的な気持ちが伝わるように努力する」[A]: $t(228) = -2.08$, $p < .05$ であった。以上の結果から総合的には、女性の得点が高い傾向がみられた。特に、KJ法による分類の段階において、文化一般の対人関係の構築に関する要領にカテゴリ化された項目について男性より高い得点を示す結果となった。

外国人カテゴリにみるコンピテンス コンピテンスの項目得点が、想定される外国人のカテゴリ間で差があるかを検証するため、項目得点を従属変数、外国人の4カテゴリを独立変数とした一元配置の分散分析を行った。表4・表5にカテゴリごとの項目得点の平均値と標準偏差、および、分散分析の結果を示す。分散分析の結果、カテゴリ条件による有意差がみられた項目があった。多重比較(Sidak法, 5%水準)を行なったところ、カテゴリ間で有意差がみられた項目があった。

表4・表5に示されているように、各調査においてカテゴリ間に有意差がみられた項目は、以下の30項目であった。「外国人との間に疑問や納得できないことがあったときは、納得できるまできちんと話し合う」[調査A]: $F(3, 230) = 2.83$, $p < .05$, 「相手を不快にさせないように明るく接する」[調査B]: $F(3, 170) = 5.19$, $p < .01$, 「自分のことばのハンディを伝えるようにする」[B]: $F(3, 169) = 5.90$, $p < .001$, 「相手の国の言葉をあいさつ程度でもおぼえてたとえ下手でも声をかける」[B]: $F(3, 170) = 3.08$, $p < .05$, 「相手や相手の文化に対する寛容さや思いやりをもつことは、自分自身の人間的な成長になる」[B]: $F(3, 170) = 3.07$, $p < .05$, 「ものおじしないで自分から話しかけてみる」[B]: $F(3, 170) = 5.83$, $p < .001$, 「相手にここを開いてもらうためには、まず、自分のここを開いたり、話しかけたりする」[B]: $F(3, 170) = 4.72$, $p < .01$, 「文化や習慣、考え方は国によって大きく違う」[B]: $F(3, 170) = 3.00$, $p < .05$, 「日本の生活に慣れていないようだったら、近所を案内したり、買い物などに付き合ったりする」[A]: $F(3, 229) = 3.09$, $p < .05$, 「閉鎖的にならないで思ったことや自分の気持ちを素直に相手に伝えて、相手のこともよく聞く」[A]: $F(3, 230) = 3.95$, $p < .01$, 「相手の文化を理解しようとするオープンな姿勢をもつ」[B]: $F(3, 170) = 7.96$, $p < .001$, 「相手の国の文化や習慣、人間関係のマナーについての知識を積極的に得る」[A]: $F(3, 229) = 6.56$, $p < .001$, [B]: $F(3, 169) = 3.53$, $p < .05$, 「日本の文化を再確認するために、相手の文化や習慣について積極的に知識を得ようとする」[A]: $F(3, 230) = 3.78$, $p < .05$, [B]: $F(3, 169) = 4.70$, $p < .01$, 「外国人には、自分の気持ちを気後れせずに堂々と伝えることを心がける」[B]: $F(3, 170) = 4.26$, $p < .01$, 「日本のマナーとして、人との約束は守らなければならないことを教える」[B]: $F(3, 170) = 2.97$, $p < .05$, 「外国人が生活習慣の違いで困っているときは説明する」[B]: $F(3, 170) = 3.43$, $p < .05$, 「アイコンタクトを多くとる」[B]: $F(3, 170) = 4.94$, $p < .01$, 「日本の社会や文化、習

表4 外国人カテゴリの項目得点の平均と標準偏差, 分散分析結果 (調査A)

No.	項目	a外国人一般 (n=74)	bアジア系 (n=41)	c欧米系 (n=52)	d南米系 (n=67)	F値	多重比較
		M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)		
1	こわがらずに積極的にコミュニケーションをはかる	3.31 (1.08)	2.90 (1.07)	3.37 (1.21)	2.85 (1.05)	3.48	
2	相手に理解してもらるように日本の社会や文化、習慣について話す	3.35 (0.94)	3.12 (1.17)	3.38 (1.01)	3.10 (1.05)	1.19	
3#	お世話になった人に挨拶やお礼を言うことは日本の習慣であることを教える	3.52 (1.04)	3.27 (1.00)	3.35 (1.10)	3.39 (1.13)	.56	
4	外国人との間に疑問や納得できないことがあったときは、納得できるまできちんと話し合う	2.97 (0.98)	2.83 (1.05)	3.31 (0.94)	2.82 (0.98)	2.83*	c > d
5	笑顔で接する	4.51 (0.67)	4.22 (0.72)	4.59 (0.64)	4.49 (0.73)	2.43	
6	ことばのハンディを伝えるようにする	3.51 (0.94)	3.29 (0.93)	3.63 (1.05)	3.57 (0.99)	1.03	
7	外国人同士の仲間やグループに対して親しく話しかける	2.73 (1.14)	2.61 (1.07)	2.98 (1.02)	2.612 (1.09)	1.20	
8#	簡単なことでも言葉が通じないものかきさをわかっていて	4.24 (0.81)	4.07 (0.85)	4.35 (0.71)	4.00 (1.04)	1.91	
9#	日本の習慣として、言葉に出して言ったこと、心の中で思っていることが違う場合があることをアドバイスする	3.14 (1.11)	2.83 (1.06)	3.29 (1.11)	2.96 (1.08)	1.25	
10#	日本語の会話の練習相手になる	3.72 (1.15)	3.76 (1.07)	3.71 (1.18)	3.78 (0.93)	.05	
11	外国人と接する機会をたくさんもつ	2.88 (1.15)	2.88 (1.14)	3.27 (1.24)	2.96 (1.20)	1.33	
12	1日頃からあいさつする	3.41 (1.10)	3.66 (1.04)	3.63 (1.03)	3.39 (1.14)	.98	
13	余裕をもって相手に接する	2.85 (0.99)	3.00 (1.02)	2.98 (1.13)	2.90 (0.99)	.27	
14	言いたいことを身振り手振りでもいから伝えてほしいことを言う	3.64 (0.90)	3.71 (0.96)	3.94 (0.87)	3.63 (1.00)	1.41	
15#	相手との信頼関係をつくるため、時間をかけて根気よくつき合う	3.51 (0.95)	3.56 (1.05)	3.73 (1.01)	3.39 (0.89)	1.25	
16#	日本語が堪能ではない人々は、単語をならべて意志を伝えるだけでも大変だと	3.89 (0.92)	3.98 (0.91)	3.60 (1.11)	3.69 (1.05)	1.62	
17#	日本人がことばではっきり言わないときは、表情などをよく見て日本人の気持ちを判断すること	3.24 (1.06)	3.27 (1.05)	3.20 (1.00)	3.07 (1.11)	.40	
18#	日本を生活していると、外国語でコミュニケーションすることの難しさを忘れがちになる	3.84 (1.03)	3.93 (1.01)	3.67 (1.26)	3.66 (1.05)	.75	
19	お互いの社会や文化について比較したり、話し合ったりすれば、自分の知識や視野が広がる	4.27 (0.80)	4.17 (0.80)	4.52 (0.70)	4.18 (0.87)	-.97	
20	相手に日本語があまり通じなくても、身振り手振りでも伝えようとする	4.22 (0.73)	4.20 (0.78)	4.46 (0.61)	4.19 (0.89)	1.55	
21	伝えたいことを自信をもって相手に言う	3.23 (0.93)	3.44 (0.95)	3.29 (0.94)	3.19 (0.96)	.64	
22	遠慮をしないで積極的に話しかけてみる	2.93 (1.01)	3.02 (1.13)	3.17 (1.12)	2.85 (1.00)	.99	
23	相手の様子うかがうのではなく、じぶんから心の壁を取り除く	3.04 (1.01)	2.90 (1.04)	3.06 (1.19)	2.70 (0.90)	1.65	
24#	文化や習慣、考え方は国によって大きく違う	4.49 (0.74)	4.49 (0.68)	4.48 (0.70)	4.39 (0.87)	.26	
25#	日本人に合わせた行動をした方がよい場合があることをアドバイスする	2.96 (1.04)	3.20 (1.19)	3.15 (1.07)	3.28 (1.01)	1.15	
26#	日本の生活に慣れないようだったら、近所を案内したり、買い物などに付き合ったりする	3.49 (1.03)	3.37 (1.02)	3.79 (1.00)	3.22 (1.06)	3.09*	c > d
27#	日本語の「断り方の表現」には、たくさんのバリエーションがあることを教える	3.20 (1.09)	3.35 (1.00)	3.50 (0.96)	3.25 (1.03)	.94	
28	閉鎖的にならないで思ったことや自分の気持ちを素直に相手に伝えて、相手のこともよく聞く	3.47 (0.94)	3.46 (0.87)	3.85 (0.92)	3.27 (0.91)	3.95**	c > d
29	言いたいことを自然な話し方で伝える	3.41 (0.86)	3.37 (0.92)	3.56 (1.06)	3.19 (1.08)	1.39	
30	文化や習慣の違いがあることは仕方がないで、共通点をさがすようにする	3.54 (0.94)	3.59 (0.89)	3.75 (1.14)	3.58 (0.97)	.50	
31#	相手の国の文化や習慣、人間関係のマナーについての知識を積極的に得る	3.88 (0.87)	3.80 (0.98)	4.33 (0.73)	3.60 (1.00)	6.56***	c > a > b > d
32#	日本の文化を再確認するために、相手の文化や習慣についての積極的に知識を得ようとする	3.88 (0.88)	3.78 (0.94)	4.15 (0.87)	3.57 (1.10)	3.78*	c > d
33#	自己主張を述べた方がよい場合があることをアドバイスする	2.79 (0.87)	2.90 (1.04)	2.75 (1.03)	2.81 (1.06)	.19	
34#	日本人には、はっきりと主張した方が受け入れられる	3.85 (0.89)	3.98 (0.88)	4.00 (0.77)	3.69 (0.94)	1.56	
35#	ジェスチャーをまじえて伝えたり、聞いたりする	4.18 (0.75)	4.25 (0.81)	4.38 (0.66)	4.03 (0.94)	1.98	
36	相手を和ませるように接する	3.74 (0.84)	4.07 (0.79)	3.98 (0.85)	3.66 (1.01)	2.62	
37	彼らが生きてきた環境やその人の生き方を尊重する	4.07 (0.83)	4.10 (0.80)	4.21 (0.85)	3.87 (0.98)	1.63	
38#	日常生活に困っていたら役立つ情報を一緒に探す	3.70 (0.95)	3.71 (0.87)	3.87 (0.97)	3.70 (0.89)	.42	
39#	日本のマナーとして、人との約束は守らなければならないことを教える	3.39 (0.99)	3.68 (1.06)	3.77 (0.98)	3.69 (0.92)	1.88	
40#	外国人が生活習慣の違いで困っているときは説明する	3.85 (0.86)	4.10 (0.83)	4.21 (0.70)	3.99 (0.73)	2.36	
41	外国人と話す時は、相手が自分のことをどう思っているのかにこだわらない	2.99 (0.93)	2.66 (0.76)	2.84 (1.10)	2.76 (1.12)	1.12	
42	アイコンタクトを多くとる	3.96 (1.01)	3.73 (0.92)	3.83 (1.00)	3.61 (1.14)	1.39	
43#	言いたいことは丁寧に主張する	3.80 (0.91)	3.80 (0.81)	4.08 (0.79)	3.66 (0.83)	2.47	
44	日本の社会や文化、習慣について進んで話す	3.49 (0.94)	3.44 (1.00)	3.54 (1.04)	3.07 (0.78)	3.26*	c > d
45#	「謙遜した方が好意的に受け入れられる場合があることをアドバイスする	2.89 (0.96)	3.00 (1.05)	3.06 (1.04)	3.12 (0.96)	.66	
46#	断るときは相手を傷つけないように、はっきりと言わない方がよい場合があることを教える	3.08 (1.00)	3.10 (1.04)	3.29 (1.13)	3.30 (0.89)	.82	
47	外国人には遠慮をしないで応じる	2.95 (0.94)	2.85 (0.94)	3.13 (0.99)	2.85 (1.05)	.97	
48#	外国人が理解できるように普段の自分の話し方のスピードをかける	4.04 (0.71)	4.15 (0.82)	3.96 (0.97)	3.87 (0.98)	.99	
49	沈黙が長くならないように会話を続けるように努める	3.32 (0.78)	3.37 (0.99)	3.54 (0.98)	3.30 (1.04)	.74	
50#	相手の文化と自分(日本)の文化に摩擦が起こらないように潤滑油のような存在になる	3.01 (0.93)	2.78 (0.96)	3.25 (1.03)	2.88 (0.88)	2.30	
51#	日本の習慣として、周りの人に従わないと誤ってしまうことをアドバイスする	2.78 (0.93)	2.76 (1.04)	2.75 (1.12)	2.97 (1.01)	.65	
52#	「すみません」が適切に使えるように教える	3.33 (1.01)	3.32 (1.06)	3.25 (1.03)	3.27 (1.04)	.08	
53	外国人と話すときは、謙遜しない	2.99 (1.00)	2.66 (0.96)	2.96 (1.10)	2.72 (1.01)	1.51	
54	自分のことを伝えたい気持ちを進んで表す	3.53 (0.86)	3.20 (0.94)	3.48 (0.98)	3.19 (0.94)	2.21	
55#	話のきっかけを見つける	3.76 (0.84)	3.63 (1.02)	3.83 (0.92)	3.57 (0.86)	1.01	
56#	外国人に対する固定観念(思い込み)を柔軟にかえる	3.77 (0.96)	3.76 (0.80)	3.96 (0.91)	3.48 (0.88)	2.85*	c > d
57#	集団の意見を取り入れた方がよいことをアドバイスする	3.11 (1.03)	3.10 (1.01)	3.06 (1.02)	3.11 (0.88)	.03	
58#	社交辞令だけで相手を誘わない	3.31 (0.94)	3.29 (1.05)	3.25 (0.88)	3.27 (0.90)	.05	
59	親しみやすい雰囲気です接する	4.03 (0.76)	4.15 (0.69)	4.19 (0.82)	3.81 (0.93)	2.65	
60#	「遠慮」することは、相手への思いやりや配慮であることを教える	3.08 (0.96)	3.34 (0.96)	3.33 (0.98)	3.09 (0.88)	1.29	
61	話し合いをしない限り、お互いの誤解は深くなるばかりである	3.64 (0.93)	3.93 (0.91)	3.62 (1.03)	3.45 (1.08)	1.98	
62	明るく振舞う	4.41 (0.72)	4.05 (0.95)	4.42 (0.80)	4.13 (0.83)	2.93	
63#	違う文化や習慣などもつ外国人には、自分の意見をはっきり言わないと誤解が生じる	3.91 (0.78)	3.93 (0.75)	4.06 (0.75)	3.76 (0.85)	1.39	
64	相手の話しを進んで聞きたい気持ちを表す	3.95 (0.77)	3.93 (0.89)	4.04 (0.88)	3.54 (0.94)	4.10**	c > a > d
65#	外国人に集団行動を押し付けない	3.49 (0.74)	3.29 (0.96)	3.52 (1.02)	3.19 (1.03)	1.71	
66	積極的な気持ちが伝わるように努力する	3.91 (0.83)	3.85 (0.86)	3.96 (0.88)	3.55 (0.97)	2.68	

No. 横の#は調査A・調査Bの共通項目である

* p < .05; ** p < .01; *** p < .001

慣について進んで話す」[A]: $F(3, 230) = 3.26, p < .05$, 「『謙遜』した方が好意的に受け入れられる場合があることをアドバイスする」[B]: $F(3, 170) = 3.00, p < .05$, 「お互いにはっきりと気持ちを述べたり、打ち明けたりする」[B]: $F(3, 170) = 2.70, p < .05$, 「話が膨らむ内容を選んで伝える」[B]: $F(3, 170) = 2.69, p < .05$, 「相手の文化と自分(日本)の文化に摩擦が起こらないように潤滑油のような存在になる」[B]: $F(3, 170) = 4.33, p < .01$, 「自分の楽しい気持ちが相手に伝わるようにする」[B]: $F(3, 169) = 4.18, p < .01$, 「話のきっかけを見つける」[B]: $F(3, 170) = 3.39, p < .05$, 「外国人に対する固定観念(思い込み)を柔軟にかえる」[A]:

表5 外国人カテゴリの項目得点の平均と標準偏差, 分散分析結果 (調査B)

No.	項目	a.外国人一般 (n=74)	b.アジア系 (n=41)	c.欧米系 (n=52)	d.南米系 (n=67)	F値	多重比較
		M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)		
1	かたことこの言葉でもねばり強くコミュニケーションする	4.14 (.85)	3.76 (.83)	3.56 (1.10)	3.81 (1.08)	2.19	
2	日本の国のことを彼らによく説明して理解してもら	3.18 (.98)	3.18 (.80)	3.12 (9.1)	3.37 (.93)	.48	
3#	お世話になった人に挨拶やお礼を言うとは日本の習慣であることを教える	3.68 (.98)	3.32 (1.12)	3.33 (.99)	3.74 (.98)	1.75	
4	外国人との間に不快なことや誤解があったときは, 納得できるまできちんと話し合う	3.21 (1.03)	3.25 (.93)	2.98 (1.10)	3.22 (.89)	.76	
5	相手を不快にさせないように明るく接する	4.79 (.42)	4.18 (.69)	4.33 (.78)	4.41 (.80)	5.19 **	a > c > b
6	自分のことばのハンディを伝えるようにする	4.29 (.90)	3.57 (.93)	3.74 (.79)	4.15 (.86)	5.90 ***	a > d > b
7	外国人同士の仲間やグループに心を開く	3.75 (.97)	3.62 (.99)	3.23 (1.15)	3.37 (1.08)	1.94	
8#	簡単なことでも言葉が通じないもどかしさをわかっている	4.54 (.81)	4.40 (.85)	4.35 (7.1)	4.00 (1.04)	1.91	
9#	日本の習慣として, 言葉に出して言ったこと, 心の中で思っていることが違う場合があることをアドバイスする	3.39 (1.11)	3.12 (1.01)	2.81 (.91)	3.15 (.95)	2.17	
10#	日本語の会話の練習相手になる	4.18 (1.02)	4.07 (.84)	3.84 (1.04)	3.93 (1.00)	.93	
11	自分から心の壁を取り除いて, 話しかけたりする	3.64 (.95)	3.36 (1.03)	3.09 (1.17)	3.07 (1.14)	1.95	
12	相手の国の言葉をあいさつ程度でもおぼえてたとえ下手でも声をかける	4.18 (.86)	3.80 (.98)	3.49 (1.14)	3.48 (1.25)	3.08 *	a > c
13	自分の言いたいことを落ち着いて伝えることができる	3.00 (1.12)	2.87 (1.08)	2.49 (.94)	2.67 (1.11)	1.77	
14	言葉は違うが, 理解し合うことができれば上手くつきあえる	4.18 (.82)	3.96 (8.1)	3.74 (.88)	3.96 (7.1)	1.66	
15#	相手との信頼関係をつくるため, 時間をかけて根気よくつき合う	3.51 (.95)	3.56 (1.05)	3.73 (1.01)	3.39 (.89)		
16#	日本語が堪能ではない人々は, 単語をならべて意思を伝えるだけでも大変だ	3.75 (1.00)	3.79 (.98)	3.63 (1.00)	4.00 (.73)	.85	
17#	日本人がことばではっきり言わないときは, 表情などをよく見て日本人の気持ちや判断することを教える	3.68 (.98)	3.25 (.98)	3.05 (.90)	3.26 (1.13)	2.35	
18#	日本で生活していると, 外国語でコミュニケーションすることの難しさを忘れがちになる	3.71 (1.33)	3.78 (1.16)	3.88 (.98)	4.00 (1.14)	.38	
19	相手や相手の文化に対する寛容さや思いやりをもつことは, 自分自身の人間的な成長になる	4.75 (5.2)	4.42 (6.2)	4.33 (7.1)	4.59 (6.4)	3.07 *	a > c
20	ことばの問題があっても何となく話を通じるように工夫する	4.50 (.69)	4.17 (.68)	4.09 (8.1)	4.04 (.85)	2.25	
21	何を話したいのかわからないことを正確に伝える	3.61 (1.13)	3.30 (.99)	3.23 (1.07)	3.52 (1.09)	1.01	
22	ものおしなべて自分から話しかけてみる	3.68 (.94)	3.13 (1.01)	2.81 (1.14)	2.86 (1.31)	5.83 ***	a > c > d
23	相手(こちら)を聞いてもらうためには, まず, 自分のことを聞いたり, 話しかけたりする	4.14 (.76)	3.66 (.84)	3.42 (1.16)	3.26 (1.10)	4.72 **	a > c > d
24#	文化や習慣, 考え方は固くならないで大きく違う	4.82 (.48)	4.62 (.69)	4.35 (8.7)	4.67 (.48)	3.00 *	a > c
25#	自己主張を抑えた方がよい場合があることをアドバイスする	3.36 (1.13)	3.18 (1.04)	2.91 (1.00)	3.22 (1.09)	1.20	
26#	日本の生活に慣れていないようだったら, 近所を案内したり, 買い物などに付き合ったりする	4.07 (.98)	3.70 (.97)	3.53 (1.05)	3.56 (1.12)	1.81	
27#	日本語の「断り方」の表現には, たくさんのバリエーションがあることを教える	3.61 (.99)	3.51 (1.03)	3.05 (.92)	3.48 (.98)	2.63	
28	外国人だからといって特別な存在としてあつたり, 接したりしないで, 日本人と同様につきあ	3.75 (1.14)	3.38 (1.05)	3.42 (1.03)	3.19 (1.08)	1.37	
29	混乱しないで話す	3.18 (1.02)	3.03 (1.02)	2.88 (1.07)	2.93 (1.21)	.49	
30	相手の文化を理解しようとするオープンな姿勢をもつ	4.57 (5.7)	4.17 (6.2)	3.74 (.98)	4.19 (.56)	7.96 ***	a > b > c
31#	相手の国の文化や習慣, 人間関係のメカニズムについての知識を積極的に得る	4.41 (.64)	4.04 (8.1)	3.77 (.92)	3.89 (.89)	3.53 *	a > c
32#	日本の文化を再確認するために, 相手の文化や習慣について積極的に知識を得ようとする	4.32 (.86)	3.96 (.89)	3.60 (.94)	3.56 (1.09)	4.70 **	a > c > d
33#	自己主張を抑えた方がよい場合があることをアドバイスする	2.89 (.88)	3.09 (9.1)	2.65 (.78)	2.85 (1.06)	2.25	
34	外国人には, 自分の気持ちを気後れせず堂々と伝えることを心がける	3.86 (.89)	3.39 (8.7)	3.49 (.98)	2.96 (1.09)	4.26 **	a > d
35#	ジェスチャーをまじえて伝えたり, 聞いたりする	4.64 (.56)	4.39 (.68)	4.19 (.85)	4.41 (.89)	2.16	
36	気軽に話す	3.86 (1.01)	3.51 (1.06)	3.30 (1.19)	3.19 (1.24)	2.07	
37	外国人にはその国の考えがあるのだからそれを尊重する	4.07 (9.0)	4.03 (7.7)	3.88 (9.1)	4.11 (7.5)	.54	
38#	日常生活に困っていたら役立つ情報を一緒に探	4.18 (.90)	3.99 (7.2)	3.70 (.86)	3.85 (1.03)	2.11	
39#	日本のマナーとして, 人との約束は守らなければならないことを教える	4.11 (.83)	3.92 (.80)	3.51 (.98)	3.85 (1.06)	2.97 *	a > c
40#	外国人が生活習慣の違いで困っているときは説明する	4.50 (.84)	4.21 (.62)	4.00 (.62)	4.22 (.51)	3.43 *	a > c
41	外国人と話すときは, 相手が自分のことをどう思っているのか気にしない	2.54 (1.10)	2.64 (1.03)	2.80 (.95)	2.30 (1.38)	.71	
42	感情表現を豊かにして接する	4.36 (.73)	3.70 (.94)	3.56 (.85)	3.70 (1.03)	4.94 **	a > d > b > c
43#	言いたいことは丁寧に主張する	3.96 (.84)	3.81 (.75)	3.84 (.84)	3.78 (.80)	.31	
44	日本社会の習慣やマナーなど, 日常的なことから日本の文化について話す	4.04 (.84)	3.77 (.78)	3.70 (1.01)	3.78 (.75)	.96	
45#	「謙遜した方が好意的に受け入れられる場合があることをアドバイスする	3.43 (1.00)	3.07 (1.00)	2.74 (.95)	2.85 (1.03)	3.00 *	a > c
46#	断るときは相手を傷つけないように, はっきりと言わない方がよい場合があることを教える	3.39 (.83)	3.29 (.92)	2.88 (1.03)	3.33 (1.04)	2.35	
47	お互いにはっきりと気持ちを述べたり, 打ち明けたりする	3.96 (.88)	3.47 (.89)	3.37 (.87)	3.44 (1.09)	2.70 *	a > c
48#	外国人が理解できるように普段の自分ず話し方をかえる	4.50 (.69)	4.22 (.72)	4.05 (.95)	4.22 (.93)	1.75	
49	話が膨らむ内容を選んで伝える	3.86 (1.04)	3.42 (.84)	3.40 (.95)	3.15 (1.13)	2.69 *	a > d
50#	相手の文化と自分(日本)の文化に摩擦が起こらないように潤滑油のような存在になる	4.46 (.79)	4.01 (.77)	3.77 (.92)	3.74 (1.16)	4.33 **	a > c > d
51#	日本の習慣として, 周りの人に従わないと浮いてしまうことをアドバイスする	2.96 (.96)	2.86 (.93)	2.42 (1.03)	2.56 (.97)	2.73	
52#	「すみません」が適切に使えないように教える	3.39 (.99)	2.83 (.97)	3.21 (1.10)	3.30 (.87)	3.20	
53	外国人と話すときは, 遠慮しないで応じる	3.71 (1.01)	3.37 (.92)	3.26 (1.14)	3.15 (1.23)	1.59	
54	自分の楽しい気持ちが相手に伝わるようにする	4.50 (.75)	4.03 (.73)	3.74 (1.07)	3.96 (1.06)	4.18 **	a > c
55#	話のきっかけをみつめる	4.29 (.85)	3.93 (.77)	3.58 (1.16)	3.78 (1.05)	3.39 *	a > c
56	外国人を身近に感じることができれば, 異なる人種や民族に対する違和感が減る	4.54 (.79)	4.22 (.78)	4.16 (.69)	4.33 (.68)	1.65	
57#	集団の意見を取り入れた方がよいことをアドバイスする	3.46 (1.10)	3.25 (8.7)	2.63 (8.7)	2.89 (1.01)	6.16 ***	a > b > c
58#	社交辞令だけで相手を誘わない	3.29 (1.01)	3.49 (.87)	3.21 (.97)	3.30 (1.20)	.86	
59	好感を得るような態度で接する	4.18 (.77)	4.04 (.76)	3.91 (.78)	3.81 (1.08)	1.14	
60#	「遠慮」することは, 相手への思いやりや配慮であることを教える	3.68 (.86)	3.45 (.91)	3.19 (.93)	3.00 (.96)	3.24 *	a > d
61	ささいなことでもよく話し合ってお互いを知る	4.29 (.90)	3.62 (.80)	3.51 (.91)	3.48 (1.16)	5.23 **	a > b > c > d
62	元氣よく積極的に接する	4.46 (.74)	4.01 (.97)	3.84 (1.04)	3.78 (1.19)	2.86	
63#	違う文化や習慣などもつつ外国人には, 自分の意見をはっきり言わないと誤解が生じる	4.36 (.78)	4.03 (.73)	4.05 (.97)	3.81 (1.21)	1.76	
64	相手に対して自分の楽しい気持ちを表	4.57 (.74)	4.11 (.72)	4.02 (1.01)	4.19 (.79)	2.89 *	a > c
65#	外国人に集団行動を押し付けない	3.50 (.88)	3.61 (.80)	3.37 (1.11)	3.52 (1.01)	.58	
66#	相手に興味をもってもらえるような態度で聞く	4.43 (.74)	3.99 (.72)	3.91 (.89)	3.78 (1.01)	3.40 *	a > d

No. 横の#は調査A・調査Bの共通項目である。

* $p < .05$; ** $p < .01$; *** $p < .001$

$F(3, 229) = 2.85, p < .05$, 「集団の意見を取り入れた方がよいことをアドバイスする」[B]: $F(3, 169) = 6.16, p < .001$, 「『遠慮』することは, 相手への思いやりや配慮であることを教える」[B]: $F(3, 170) = 3.24, p < .01$, 「ささいなことでもよく話し合ってお互いを知る」[B]: $F(3, 170) = 5.23, p < .01$, 「相手の話しを進んで聞きたい気持ちを表す」[A]: $F(3, 229) = 4.10, p < .01$, [B]: $F(3, 170) = 2.89, p < .05$, 「相手に興味をもってもらえるような態度で聞く」[B]: $F(3, 170) = 3.40, p < .05$ であった。以上の結果から総合的には, 外国人一般カテゴリ, もしくは欧米系外国人に対して, 南米系外国人を想定した場合の項目得点がKJ法によるカ

表6 多文化間コンピテンス尺度項目(調査A)の因子負荷量行列(主因子法・Promax回転)

No.	項目	因子		
		I	II	III
22	遠慮をしないで積極的に話しかけてみる。	.899	-.036	-.062
13	余裕をもって相手に接する。	.836	.024	-.181
7	外国人同士の仲間やグループに対して親しく話しかける。	.832	.071	-.169
23	相手の様子をうかがうのではなく、じぶんから心の壁を取り除く。	.809	-.043	-.023
1	こわがらずに積極的にコミュニケーションをはかる。	.713	-.050	-.010
53	外国人と話すときは、謙遜しない。	.636	-.018	-.103
47	外国人には遠慮しないで応じる。	.589	-.013	.057
41	外国人と話す時は、相手が自分のことをどう思っているのかにこだわらない。	.587	-.046	-.187
21	伝えたいことを自信をもって相手に言う。	.560	-.015	.121
29	言いたいことを自然な話し方で伝える。	.556	.113	.083
11	外国人と接する機会をたくさんもつ。	.523	.033	.197
12	日頃からよくあいさつする。	.417	.153	.151
54	自分のことを伝えたい気持ちを進んで表す。	.401	-.070	.393
45	「謙遜」した方が好意的に受け入れられる場合があることをアドバイスする。	-.016	.813	-.137
46	断るときは相手を傷つけないように、はっきりと言わない方がよい場合があることを教える。	-.017	.770	-.018
51	日本の習慣として、周りの人に従わないと浮いてしまうことをアドバイスする。	-.015	.757	-.158
60	「遠慮」することは、相手への思いやりや配慮であることを教える。	-.124	.747	.144
25	日本人に合わせた行動をした方がよい場合があることをアドバイスする。	.093	.737	-.222
33	自己主張を控えた方がよい場合があることをアドバイスする。	.014	.685	-.116
57	集団の意見を取り入れた方がよいことをアドバイスする。	.021	.666	.038
52	「すみません」が適切に使えるように教える。	-.131	.663	.189
39	日本のマナーとして、人との約束は守らなければならないことを教える。	-.075	.640	.193
27	日本語の「断り方の表現」には、たくさんのバリエーションがあることを教える。	.076	.595	.109
17	日本人がことばではっきり言わないときは、表情などをよく見て日本人の気持ちを判断することを教える。	.139	.431	.030
9	日本の習慣として、言葉に出して言ったことと、心の中で思っていることが違う場合があることをアドバイスする。	.178	.386	.053
64	相手の話しを進んで聞きたい気持ちを表す。	.096	-.088	.694
31	相手の国の文化や習慣、人間関係のマナーについての知識を積極的に得る。	-.017	.060	.684
32	日本の文化を再確認するために、相手の文化や習慣について積極的に知識を得ようとする。	.028	.046	.657
63	違う文化や習慣などをもう外国人には、自分の意見をはっきり言わないと誤解が生じる。	-.160	-.114	.651
43	言いたいことは丁寧に主張する。	.002	-.027	.647
66	積極的な気持ちが伝わるように努力する。	.201	-.080	.634
48	外国人が理解できるように普段の自分の話し方のスピードをかえる。	-.273	.018	.616
36	相手を和ませるように接する。	-.104	.081	.591
55	話のきっかけを見つける。	.256	-.053	.528
34	外国人には、はっきりと主張した方が受け入れられる。	-.121	-.026	.512
38	日常生活に困っていたら役立つ情報を一緒に探す。	.025	.162	.505
42	アイコンタクトを多くとる。	.059	-.258	.492
61	話し合いをしない限り、お互いの誤解は深くなるばかりである。	-.113	.062	.440
56	外国人に対する固定観念(思い込み)を柔軟にかえる。	.177	.080	.433
44	日本の社会や文化、習慣について進んで話す。	.260	.136	.425
49	沈黙が長くないように会話を続けるように努める。	.094	.040	.418
因子間相関		I	II	III
I		-	.29	.62
II			-	.38

テゴリ全般の項目に亘って低くなる傾向が示された。

多文化間コンピテンスの構造 調査A・調査Bの多文化間コンピテンス尺度に対して因子分析を行なうにあたり、天井効果が生じていると判断された項目と項目得点の平均値が4.0以上で分布に偏りがあると見られる項目を事前に分析対象から除いた。

調査Aでは、56項目に対して主因子法・プロマックス回転による因子分析を行った。因子寄与の変動状態と因子の解釈可能性から、3因子構造が妥当であると判断した。そして、.40未満の十分な負荷量が示されなかった15項目を除き、残りの41項目に対して、再度、主因子法・プロマックス回転による因子分析を行った。プロマックス回転後の因子負荷量行列を表6に示す。

第Ⅰ因子は「22. 遠慮をしないで積極的に話しかけてみる」「13. 余裕をもって相手に接する」「7. 外国人同士の仲間やグループに対して親しく話しかける」「23. 相手の様子をうかがうのではなく、じぶんから心の壁を取り除く」「1. こわがらずに積極的にコミュニケーションをはかる」をはじめとする13項目から構成されていた。この因子は、相手と相手文化に対する距離を縮めて関わり合いが持てること、対人関係において良好な関係の構築を可能にする内容を反映していると解釈できる項目から構成されていた。したがって、第Ⅰ因子は「積極的なコミュニケーションによる関与」と命名した。第Ⅱ因子は「45. 『謙遜』した方が好意的に受け入れられる場合があることをアドバイスする」「46. 断るときは相手を傷つけないように、はっきりと言わない方がよい場合があることを教える」「51. 日本の習慣として、周りの人に従わないと浮いてしまうことをアドバイスする」「60. 『遠慮』することは、相手への思いやりや配慮であることを教える」「25. 日本人に合わせた行動をした方がよい場合があることをアドバイスする」をはじめとする11項目から構成されていた。この因子は、日本文化下で無自覚的に獲得された待遇行動に気づいていて、それを外国人に相手に伝えることによって相互作用をもたらすことを可能にするとして解釈できる項目から構成されていた。したがって、第Ⅱ因子は「日本文化・習慣の手引き」と命名した。第Ⅲ因子は「64. 相手の話しを進んで聞きたい気持ちを表す」「31. 相手の国の文化や習慣、人間関係のマナーについての知識を積極的に得る」「32. 日本の文化を再確認するために、相手の文化や習慣について積極的に知識を得ようとする」「63. 違う文化や習慣などをもつ外国人には、自分の意見をはっきり言わないと誤解が生じる」「43. 言いたいことは丁寧に主張する」をはじめとする16項目から構成されていた。この因子は、自文化と異文化との差異を客観的に捉えることが可能で、その知識や認識に従った行動ができること、異文化の人々との人間関係を維持するための誠実さを備えていると解釈できる項目から構成されていた。したがって、第Ⅲ因子は「異文化への共感的理解」と命名した。各因子の信頼性を確認するため、因子ごとに信頼性係数を算出したところ、第Ⅰ因子では $\alpha = .905$ 、第Ⅱ因子では $\alpha = .904$ 、第Ⅲ因子では $\alpha = .886$ であることが示された。

調査Bの項目に対しても、調査Aと同様の分析をおこなった。まず、天井効果および、分布に

偏りがあると判断された18項目を除外した48項目に対して主因子法・プロマックス回転を行った。続いて、.40未満の十分な負荷量が示されなかった項目と複数の因子にまたがって高い負荷量を示していた13項目を除き、残りの35項目に対して、再度、主因子法・プロマックス回転による因子分析を行った。調査Bの項目における因子負荷量行列を表7に示す。結果的に、調査Bでも調査Aと同様の解釈が可能な3因子（「積極的なコミュニケーションによる関与」10項目、「日本文化・習慣の手引き」13項目、「異文化への共感的理解」10項目）が見られると解釈された。各因子の信頼性係数は、それぞれ $\alpha = .919, .873, .835$ であった。

コンピテンスと海外志向との関連 多文化間コンピテンスと海外滞在経験、外国人との交流経験、海外への興味との関連を検証するために、 χ^2 検定を行った。まず、調査A・調査Bの項目得点の合計得点と平均値を算出し、平均値を境に各調査対象者をコンピテンス得点「低群」と「高群」の2群に分けた。表8は、各群における海外志向項目の観測結果を集計したものである。

表8に示されているように、調査Aでは、コンピテンス得点群と外国人との交流経験の人数の偏りに有意差が認められた（ $\chi^2(1) = 6.07, p < .05$ ）。そこで、残差分析を行った結果、残差に見られるように、外国人の友人との交流経験者はコンピテンスが高く、経験の無い対象者は低いという結果が得られた。同様に調査Bでは、外国人との交流経験の有無（ $\chi^2(1) = 7.87, p < .01$ ）と併せて、海外に関する興味関心とその事柄に対する取り組みを行っている人数の偏りに有意差が認められた（ $\chi^2(1) = 4.53, p < .05$ ）。残差分析を行ったところ、「留学をしたいと思っている」等の興味関心の有無に加えて、「TOEICの勉強をしている」「外国人とボランティアをしている」等、その関心事に対して実際に行動を起こしている対象者は、行動を起こしていない対象者に比べ、コンピテンスが高いという結果が得られた。しかし、調査A・調査Bともに、海外の滞在経験の有無に僅かに偏りの傾向がみられたが、有意差は認められなかった。また、滞在経験における滞在期間、および、友人の有無における交流の頻度には、それぞれ有意差はみられなかった。

考察と今後の課題

本研究では、多文化間コンピテンス尺度を作成するための質問紙調査を実施した。項目数の多さから、調査票は2種類作成され、そのどちらの調査においても、ほぼ同一の結果が得られた。まず、性差における各コンピテンス項目において、女性の方がより能動的な働きかけ、対応を行なう傾向が明らかとなった。特に通文化的な対人関係の構築に関する項目においてその傾向が示されており、コミュニケーションを行なう上では、女性の積極性が示唆されていた。下位尺度の構成においては、第Ⅲ因子である相手文化への共感と理解においてその傾向が顕著となっていた。次に、コンピテンスの対象として想定される外国人のカテゴリにおける各コンピテンスは、約半数の項目において、カテゴリ間に対応の差異がみられた。コンピテンスのほぼ全ての性質に対し

表7 多文化間コンピテンス尺度項目（調査B）の因子負荷量行列（主因子法・Promax回転）

No.	項目	因子		
		I	II	III
22	ものおじしないで自分から話しかけてみる。	.940	.078	-.235
11	自分から心の壁を取り除いて、話しかけたりする。	.903	.008	-.097
36	気軽に話す。	.872	-.055	-.042
7	外国人同士の仲間やグループに心を開く。	.765	.052	-.112
12	相手の国の言葉をあいさつ程度でもおぼえて、たとえ下手でも声をかける。	.751	-.044	-.051
53	外国人と話すときは、遠慮しないで応じる。	.712	-.074	.084
23	相手にこころを開いてもらうためには、まず、自分のこころを開いたり、話しかけたりする。	.671	-.034	.152
26	日本の生活に慣れていないようだったら、近所を案内したり、買い物などに付き合ったりする。	.594	.175	.009
13	自分の言いたいことを落ち着いて伝えることができる。	.484	.100	-.145
1	かたことの言葉でもねばり強くコミュニケーションする。	.483	.070	.102
34	外国人には、自分の気持ちを気後れせずに堂々と伝えることを心がける。	.466	.046	.272
15	相手との信頼関係をつくるため、時間をかけて根気よくつき合う。	.456	-.077	.308
47	お互いにはっきりと気持ちを述べたり、打ち明けたりする。	.444	-.087	.323
29	混乱しないで話す。	.394	.046	.004
51	日本の習慣として、周りの人に従わないと浮いてしまうことをアドバイスする。	-.018	.776	-.109
60	「遠慮」することは、相手への思いやりや配慮であることを教える。	.001	.761	.004
57	集団の意見を取り入れた方がよいことをアドバイスする。	.229	.753	-.212
46	断るときは相手を傷つけないように、はっきりと言わない方がよい場合があることを教える。	-.081	.744	.047
45	「謙遜」した方が好意的に受け入れられる場合があることをアドバイスする。	-.017	.719	.054
33	自己主張を控えた方がよい場合があることをアドバイスする。	-.060	.642	-.073
9	日本の習慣として、言葉に出して言ったことと、心の中で思っていることが違う場合があることをアドバイスする。	.097	.501	.027
25	日本人に合わせた行動をした方がよい場合があることをアドバイスする。	-.032	.474	.212
27	日本語の「断り方の表現」には、たくさんのバリエーションがあることを教える。	.189	.470	.081
52	「すみません」が適切に使えるように教える。	-.040	.460	.160
59	好感を得るような態度で接する。	-.113	-.030	.582
43	言いたいことは丁寧に主張する。	.005	.042	.570
44	日本社会の習慣やマナーなど、日常的なことから日本の文化について話す。	-.044	.211	.557
38	日常生活に困っていたら役立つ情報を一緒に探す。	.066	.119	.548
55	話のきっかけを見つける。	.392	-.179	.540
42	感情表現を豊かにして接する。	.237	-.074	.537
21	何を話したらいいのかわからないことを正直に伝える。	-.299	.213	.520
32	日本の文化を再確認するために、相手の文化や習慣について積極的に知識を得ようとする。	.235	.017	.509
39	日本のマナーとして、人との約束は守らなければならないことを教える。	.004	.355	.471
49	話が膨らむ内容を選んで伝える。	.122	-.092	.446
6	自分のことばのハンディを伝えるようにする。	-.056	-.057	.410
因子間相関		I	II	III
I		-	.24	.60
II			-	.40

表8 得点群別にみた海外志向状況の χ^2 検定結果

C得点群	滞在経験		外国人友人		関心の有無と実践		
	有り n (%)	無し n (%)	いる n (%)	いない n (%)	関心のみ n (%)	関心事への実践 n (%)	
調査A	高群	41 (73.2)	105 (59.0)	38 (77.6)	108 (58.4)	44 (58.7)	60 (73.2)
	低群	15 (26.8)	73 (41.0)	11 (22.4)	77 (41.6)	31 (41.3)	22 (26.8)
		-1.92 †	1.92 †	-2.46 *	2.46 *	1.92 †	-1.92 †
調査B	高群	43 (65.2)	54 (50.0)	41 (70.7)	56 (48.3)	28 (47.5)	45 (66.2)
	低群	23 (34.8)	54 (50.0)	17 (29.3)	60 (51.7)	31 (52.5)	23 (33.8)
		-1.95 †	1.95 †	-2.81 **	2.81 **	2.13 *	-2.13 *

各度数値の下段は調整済み残差である。

†: $p < .10$, *: $p < .05$, **: $p < .01$

て、南米系外国人への消極性が表れていた。一方で、特定の出身地域を想定しない場合と欧米系外国人に対しては、積極性が示されていた。これは、調査対象者が大学生であったため、対象者がこれまでに受けた英語の言語教育との関連が推測される。同時に、英語以外の言語文化圏の外国人に対しては、より強い異文化性・異質性が影響し、コンピテンスの抑制が起こることが示唆されていた。この傾向は、第Ⅰ因子と第Ⅲ因子を構成する下位尺度に表もれており、アジアおよび南米系外国人に対する積極的なコミュニケーション、および南米文化への共感や理解は抑えられることが示されていた。また、外国人の友人との接触や実践的活動といった海外志向の高さとコンピテンスの高さには、予測された関連があることが明らかとなり、尺度の基準関連妥当性が示唆された。最後に、因子分析においては、同様の解釈が可能な以下の3因子を得た。「Ⅰ：積極的なコミュニケーションによる関与」「Ⅱ：日本文化・習慣の手引き」「Ⅲ：異文化への共感的理解」の各因子構造においても同等性が示されていた。特に第Ⅱ因子と第Ⅲ因子の下位尺度は、両調査に共通の複数の項目によって構成されており、因子の普遍性が示唆された。また、信頼性係数においても十分な値が得られたと考える。

本予備調査では、項目を作成する際、観点の一つとしてSodowsky et al. (1994) が展開させた多文化間カウンセラーに求められるMCIを参考としていた。MCIは、「気づき」「知識」「スキル」の3因子から構成されていた。本予備調査では、この異文化接触に必要な3領域を日本人住民の具体的な対応をつくり出す機能を持つ働きとして位置づけた。その結果、本研究で行なった因子分析において、MCIとの間に以下のような共通性がみられた。まず、Sodowsky et al. (1994) の「気づき」の解釈である「対人関係上の行動様式の文化的特徴の認識」や「異文化の視点から自文化を知覚する」については、調査A・調査Bの第Ⅱ因子の解釈であった外国人にとって認知と行動が困難だと思われる対人行動の認識とそのアドバイス、日本社会において人間関係を円滑にする行動のアドバイスに同質性が表れていたと考えられる。また、「知識」とされる「異文化を正しく理解する（ことで文化的ストレスを軽減させることができる）」については、第

Ⅲ因子の相手と相手の国，社会，文化に対する積極的な理解，自文化と異文化との差異を客観的に捉えており，その認識に従うという解釈に同質性見られたが。さらに，「スキル」とされる「文化によるコミュニケーションの違いに対して，上手くコミュニケーションができるように工夫する」「言葉が通じないことに対して寛容になれる」については，第Ⅰ因子の相手と相手の国，社会，文化に対する積極的な関わり合い，自文化のコミュニケーションスタイルを相手文化のスタイルに合わせようとする，ことばの壁にとらわれない積極性という解釈に行動面をカバーするスキルとの共通点が現れていた。また，本研究は，共生社会の統治を求められる自治体やその関係団体・支援団体，外国人を雇用する企業を含む地域社会の一般の日本人住民の対応に焦点を当てている。したがって，本予備調査の項目は，Sodowsky et al. (1994) による専門性の高いコンピテンスとは相違がある。具体的には，調査A・調査Bの第Ⅰ因子に共通した特徴として表れていた良好な人間関係を開始，維持するための自己呈示や相手との距離を縮める自発性といった文化に共通する方略の使用である。さらに，第Ⅲ因子の下位尺度には異文化への動機づけの高さを反映する項目が含まれていた。このような，対人関係における通文化的方略と異文化への動機づけは，多文化社会における日本住民の対応として有用なコンピテンスであることが示唆された。以上，本予備調査において日本人住民のコンピテンスとして定義した対応は，供給源として背景に位置づけた3領域から，それぞれ分配されるかたちで作り出されていたことが示唆された。

今後は，性差と外国人カテゴリ，及び因子分析に示された予備調査の結果を基に，本調査に用いる項目の選定を行っていくこととする。その際，予備調査で明らかとなった外国人の出身地域を限定することによって，コンピテンスに差が生じたという結果に留意する必要があると考える。なぜならば，前述の通り，予備調査の協力者が大学生という性質上，想定されたコンピテンスの対象が外国語教育，特に英語教育に関連する一部のいわゆるホワイトカラー職の外国人であることが推測される。しかし，日本でホワイトカラー職に就く外国人の比率は僅かである。一方で，国籍別の外国人登録者は，アジアや南米系出身者とその家族が大半を占め，多くが製造業であるいわゆるブルーカラー職に従事している（稲垣，2011）。したがって，現行の多文化共生社会において，行政や企業，一般の日本人住民が対応を求められる外国人の出身地域，外国人が置かれている環境等の状況に鑑みて項目の検討を図ることとする。

引用文献

- Amiot, C.E., & Sablonniere, R. de la (2010). Facilitating the Development and Integration of Multiple Social Identities: The Case of Immigrants in Quebec (34–61) Pichard J. Crisp (Eds.) *The Psychology of Social and Cultural Diversity*. Wiley–Blackwell
- 稲垣亮子 (2011). 多文化が共存する社会の進行—ホスト社会におけるこころの対応への検討—人間文化研究, 16, 名古屋市立大学人間文化研究科 103–117.

- 菊池章夫・堀毛一也 (1995). 社会的スキルとは 社会的スキルの心理学 川島書店 1-22.
- 奥西有里・田中共子 (2007). ホストのソーシャルスキル学習セッションに関する研究ノート：予備セッションの実施 岡山大学大学院社会文化科学研究紀要, **24**, 1, 岡山大学大学院社会文化科 115-129.
- Pedersen, P. (1989). Developing Multicultural Awareness, Knowledge, and Skill. *A handbook for developing multicultural awareness*. American Counseling Association, 25-44.
- 坂井素思 (2011). 国際化と自由化の克服 岩永雅也・坂井素思 (編著) 格差社会と新自由主義 放送大学振興会 pp.230-241.
- 桜井茂男 (2004). 学習意欲の発達 学習意欲の心理学-自ら学ぶ子どもを育てる 誠信書房 32-45.
- 佐藤郁哉 (2008). 分析の方向性をさぐる 質的データ分析法 原理・方法・実践 新曜社 111-127.
- Sodowsky, G. R., Taffe, P. C., Gutkin, T. B., and Wise, S.L. (1994). Development of the Multicultural Counseling Inventory : A Self Report Measure of Multicultural Competence. *Counseling Psychology*, **41**, American Psychological Association 137-148.
- Sue, D. W., Arredondo, P., McDavis, P. J. (1992). Multicultural Counseling Competencies and Standards : A Call to the Profession. *Journal of Counseling & Development*, **70**, 477-486.
- Sue, D. W., Bernier, J.E., Durran, A., Feinberg, L., Pedersen, P., Smith, E. J., & Vasquez-Nuttal, E. (1982). Position Paper : Cross-Cultural Counseling Competencies. *The Counseling Psychologist*, **10** (2) , 45-52.
- 高濱 愛・田中共子 (2010). 米国留学予定の日本人学生を対象としたソーシャルスキル学習 一橋大学国際教育センター紀要, **1**, 一橋大学 67-76.
- 高井次郎 (1994). 日本人との交流と在日留学生の異文化適応 異文化間教育, **8**, アカデミア出版会 106-116.
- 田中共子 (1996). 日本人チューター学生の異文化接触体験：ソーシャル・サポートとソーシャル・スキルおよび自己の成長を中心に 広島大学留学生センター紀要, **6**, 広島大学留学生センター 85-101.
- 田中共子 (1997). 日本人チューター学生の異文化接触体験 (2) : その役割と異文化交流に関する質問紙調査 広島大学留学生センター紀要, **7**, 広島大学留学生センター 84-108.
- 田中共子・藤原武弘 (1992). 在日留学生の対人行動上の困難：異文化適応を促進させるための日本のソーシャル・スキルの検討 社会心理学研究, **7**, (2) 日本社会心理学会 92-101.

田中共子・中島美奈子 (2006). ソーシャルスキル学習を組み入れた異文化間教育の試み 異文化間教育, **24**, アカデミア出版 92-102.

田中共子・高井次郎・神山貴弥・藤原武弘 (1993). 在日留学生に必要なソーシャル・スキル 広島大学総合科学部紀要IV理系編, **19**, 87-99.

White, R. W. (1959). Motivation Reconsidered : The Concept of Competence. *Psychological Review*, **66**, 297-333.

謝辞 本研究は平成23～25年度科学研究費助成金（基盤研究C, 23520652）を受けている。